

2008 年度

科目名 日本語表現論	対象学科・学年 文学部日文1回生	担当者 藤田 保幸
授業テーマ 中古語の表現		
授業の概要と目標 平安時代（中古）の言語に焦点を当てて、その概要を理解するとともに、この時代の多様な言語資料にふれて、その表現の特色を理解することを目標とする。もっぱら講義形式によって、この時代の言語の音韻・文字表記・文法・語彙・方言といった諸側面について概説し、あわせて、さまざまな資料を見ていく。テキストは簡潔なポイントの提示と資料を中心にまとめた私家版を用い、比較的早いペースで話していくことになるので、きちんとノートを取り、復習を心掛けることが肝要である。		
評価方法 もっぱら、小テストの成績によって評価するが、出席も基礎点として重視する。		
テキスト 日本語史の輪郭	著者 藤田保幸	出版社 私家版
参考書 日本語史要説	著者 渡辺実	出版社 岩波書店
授業スケジュール・内容 1～2. 中古語の時代―時代相の概観 3～4. 中古語の資料①―和文資料 5～6. 中古語の資料②―訓点資料 7. 中古語の資料③―その他 8～9. 中古語の音韻 10. 中古語の文字表記 11. 中古語の語彙 12～13. 中古語の文法 14. 中古語の方言 15. まとめ		